

渡辺復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成31年1月16日(水) 17:32~17:36 於) 檜葉町)

1. 発言要旨

本日は、ここ、檜葉遠隔技術開発センターを視察してまいりました。

東京電力福島第一原発の原子炉格納容器を模擬した実規模の試験体や原子炉建屋内での作業訓練に用いることができるバーチャルリアリティシステムなどの設備を視察し、体験をしてまいりました。福島第一原発の廃炉に向けた技術開発や人材育成のための取組が着実に進みつつあることを確認いたしました。

2. 質疑応答

(問) 実際に施設を見て回られて、大臣が持った感想をお伺いできればと思います。

(答) まず第1点、バーチャルリアリティのシステムを初めて私も体験しました。こういったバーチャルリアリティを体験することによって、より作業の効率も上げることができるのではないかなというふうに思いました。

さらには、この実規模の試験体、これもやはり今後、自分たちが作業する現場の状況が実規模で分かるということが大変素晴らしいことだというふうに思いますし、今後、廃炉をどのように進めていくか、様々な技術の開発がここから生まれてくるのではないかなと、そのように思いました。

さらには、ロボコンの場所がここであるというのを、今日初めて知りました。そういった意味では、人材育成の場としても大変重要であるなというふうに理解いたしました。

(問) 3号機の核燃料プールからの燃料取り出しですけれども、機械のトラブルが相次いで、予定が大幅に遅れていると思うんですが、早期の実現に向けて、復興庁としてどのように取り組むかお考えをお聞かせください。

(答) 基本的には、やはり安全第一で進めていかなければなりません。そのためにも、このような実規模のところできっと対応していく、そういった経験を積んでいくということが大事ではないかなと、そのように思います。

(問) 明日以降、漁協、農協等も視察する予定ですが、大臣として重点的に見ていきたいようなところはあるのでしょうか。

(答) 基本的には、漁協さんのお話を聞くということが主眼であります。実際にどのような意向を持っているのか、そういったことを実際に聞かせていただきたいというふうに思います。さらには、

商工会議所や商工会、JAの皆さん方からは、やはり産業・生業、
にしっかりと取り組んでいる様子も、お話を聞かせていただきたい
と思いますし、直接お話を聞くことによって、私たちも少しで
も今後の対策や対応など支援できるようにしていきたいと思っ
ています。

(以 上)